

総務常任委員会 所管事務調査 報告書

1 開催日時

令和6年10月29日（火曜日）午前9時46分～午前11時17分

2 開催場所

複合公共施設けやき館、富谷市役所 306会議室

3 出席委員（6名）

委員長	畑山和晴	副委員長	菊池美穂
委員	畠山由美	委員	佐藤浩崇
委員	村上治	委員	青柳信義

4 欠席委員（なし）

5 説明のため出席した者（5名）

総務部長	高橋弘勝	防災安全課長	星英樹
危機管理監	高橋康浩	防災安全課長補佐	菅原邦彦
防災安全課主事	丹野優介		

6 事務局職員出席者（1名）

主事 平塚啓太

7 調査事項

災害対応について

8 調査報告

富谷市は災害が少ない地域ではありますが、二ノ関など増水があり、また東日本大震災の時であれば、成田中の天井が壊れて危険であった、停電で電子ロックのため家に入れない、水道の復旧に時間がかかったなどがあり、その教訓を生かして、備蓄倉庫等の対応をしていると感じています。また、各町内会や小中学校でもそれぞれ備蓄しており、その地域で防災に対応できることは良いことだと思います。ただ、災害が少ないということから、市民の危機感が希薄と感じます。どこにいても的確な行動が取れるよう、市民一人一人が自らの命を守る防災意識を持ち、このことについての啓蒙が必要であると思います。

そこで、市民の方に対し、どのような備蓄品があるのかや、避難する場所(車で避難する際の避難場所)、協定先などしっかりと伝えていく必要性があります。町内会の班長などになったことであれば理解はしていますが、それでも何年かすれば忘れてしまうこともあると思います。年一回の防災訓練以外でも、例えば「忘れる前の確認です」などとタイトルを付けて定期的にLINEや広報で伝えることも必要ではないでしょうか。災害は忘れたころにやってくるので、忘れる前に意識付けすることが日ごろの防災意識を持てると思います。

避難所運営に関しては、障がい者、高齢者、妊産婦、乳幼児、ペットなど様々な要配慮者への対応もしっかりと行うことも重要であると思います。また、女性職員から見る視点も必要であり、それぞれの研修等を定期的に行う事が必要であると思います。

備蓄品に関しては、使用期限や消費期限がある物の一部に、保有しているほぼ全数量が同時に期限に達する物もあり、災害備蓄品の適正数量を見直し、ローリングストック方式を活用し、今後、計画的・平準的に補充する等、予算の効率的な執行を検討すべきであると思います。これにより、持続可能な備蓄運営が可能となり、災害時における迅速な対応力につながると思います。他の地域で発生した災害への対応等を他山の石として調査研究するべきと思います。

災害協定に関しては、現在愛知県長久手市のみとのことですが、愛知県との距離を考えると効果は低いように感じます。実際の災害の場合を考慮すれば、隣接する県との災害協定を模索することも一つの手段であると思います。

今後、自主防災会への補助金の復活は必要であると感じています。町内会費で補うことには限界があります。またコミュニティ助成は備品に限るということで、限定を解除し必要なものを揃えることができる環境を作ることが必要であると感じます。現在49の町内会があり、仮に5万円の補助金を支給した場合、245万円の支出となりますが、今後の防災に関する啓蒙活動が必要であるため、検討すべきであると思います。

令和6年11月27日

委員長 畑 山 和 晴
